庶務委員長からのメッセージ

品質を社会へ，社会の課題を研究へ
―知と実践の循環を目指して―



東海大学　情報通信学部
金子　雅明

私は，この 10 年ほどの間に，二度，庶務委員長を務める機会をいただきました．学会の歩みを見てきた経験から，これからの学会について，私なりの思いをお伝えします．

第一に，「品質」の意義を広く伝え，社会での位置づけを高めたいと思います．品質は，製品の性能や不良の有無だけの話ではありません．顧客や社会のニーズ・期待に応えるという視点は，サービスや業務，経営にも通じます．その意味を製造業に限らず，医療や行政などにも伝え，品質が社会のさまざまな場面で重視されるようにしたいのです．

そのためには，普及活動に加え，社会の仕組みへの働きかけも必要ではないでしょうか．例えば，コーポレートガバナンス・コードへの品質の観点の明示や，公共調達での品質マネジメントの重視を，国や関係機関に提言してはどうかと思います．企業にも，品質に関する知識・能力を採用条件や管理職・専門職の能力要件に明示していただきたいと思います．品質の大切さを訴えるだけでなく，その取り組みや能力が社会で具体的に評価される仕組みにつなげたいのです．

普及の基盤として私が期待するのが，ISO 9001 とその認証制度です．2026 年の改訂では，ISO 9001 が 2015 年版の基本的な枠組みを維持する一方，ISO 9000 では顧客体験，新興技術，革新などが取り上げられています．この広がりに，日本の TQM との親和性を感じます．認証取得にとどまらず TQM へ進む道筋を示し，日本の TQM を世界に伝える機会にしたいと思います．

第二に，社会の変化に応える研究について，研究者として自らに問いかけたいことがあります．品質不正の防止，デジタル技術と品質保証，顧客価値経営，サステナビリティ，多様な働き方の中での人材育成など，課題は尽きません．サブスクリプション型サービスや生成 AI による製品探索・購買行動の変化も含め，私たちは「新しい時代の TQM」を十分に示せているでしょうか．

研究には「時間」と「資金」が欠かせません．時間ができるのを待つのではなく，生成 AI の業務活用や秘書・研究支援人材の雇用など，研究者自身も働き方を見直し，研究に集中する時間をつくりたいと思います．

公的な競争的資金の獲得には，研究者自身が取り組んでいます．加えて，品質管理は実学ですから，企業の皆様からも，共同研究や委託研究を積極的に持ちかけていただけないでしょうか．企業の課題を研究につなげ，成果を実務へ返す循環を，学会としても後押ししたいと思います．

最後に，庶務委員長として目指したいのは，身の丈に合ったスマートな学会運営です．これまでの業務や手続きを目的に照らして見直し，やめるものはやめ，変えるべきものは変えていきたいと思います．あわせて，学会事務のデジタル化を進め，運営にかかる手間や負担を減らすことも大切です．従来のやり方にとらわれず，限られた人手や資金でも無理なく運営できる仕組みを整え，持続可能な学会にしていきたいと思います．

品質を社会に広め，社会の課題から新しい知を生み出し，次の世代へつなぐために，会員の皆様とともに考え，実行していきたいと思います．